



## 次期学園長に川井陽一氏を選任

### 湘南学園理事会

仲本現学園長の任期が、2016年3月末日をもって終了することから、理事会では次期学園長（2016年度から2017年度）の選任を進めてまいりました。今般11月6日開催の臨時理事会において、次期学園長に川井陽一氏を選任いたしましたので、ご報告いたします。

選任に当たり、評議員ならびに専任教員の方々から候補者の推薦を募り、川井氏を含めて三名の推薦をいただきました。その後、理事会の場で三名の方からプレゼンテーションをしていただき、提出いただきました推薦書、推薦受諾書を含めて慎重

に検討の結果、川井氏の選任を決定したものです。

湘南学園は、1933年の創立以来82周年をむかえました。これからの来るべき100周年に向け、川井学園長を中心にさまざまな課題を乗り越え、子供たちの成長と未来のために、「建学の精神」・「PとTの共

同経営」・「チーム湘南学園」の三つの理念をベースに、伝統を堅持しつつ更なる発展をめざしてまいります。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

高からなる総合学園としての更なる発展に向けて全力で取り組んでまいりたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 「希望」と「輝き」を未来につなげよう

### 次期学園長 川井陽一

この度湘南学園学園長に選任され、身の引き締まる思いを感じております。

時代を越えて輝き続ける建学の精神、教師と保護者が手を携えながら、子どもたち一人ひとりに丁寧な目を注ぐ、手づくりのよさを大切にする教育、豊かな感性を育みながら、学問の本質の追求までを目指す全人教育、湘南学園のよき伝統を大切にしながら、幼稚園、小、中、

もとより、学園は、子どもたちが安全に安心して気持ちよく過ごすことができる、そのような場であることが大前提です。このことを最優先にしながら、以下、私の考えを述べさせていただきます。



り続けるために大事にしたい点です。

### 全人教育

私は、ヒューマニズム教育を研究テーマとしてきました。ヒューマニズム教育は、ギリシア・ローマの古典を重視しながら、知、徳、体の調和的発達を目指す全人教育を指し、15世紀のイタリアで確立されました。その後、いろいろな形で、わが国を含めて、今日の教育に影響を与えています。

知、徳、体のバランスのとれた全人教育、そして読書を含めた幅広い教養教育を学園づくりの根底に据えたいと思います。何より、全人教育は湘南学園の建学の精神とも符合するものですし、今後、さらにその意義が増すと思われるからです。

### 見える学力、見えない学力

テストの点数や偏差値等、数値化できる「見える学力」がある一方で、それを支える「見えない学力」があると考える「見えない学力」は、双方とも重要であり、それぞれが支えあい、高めあう関係にあると思っ

ています。「見える学力」、幼少時からの読書や自然体験とも関連する「見えない学力」、子どもたちに育みたい二つの「学力」です。

### 次代に向けた学び

国際化、情報化に加え、AI（人工知能）の急速な進歩が子どもたちの将来の職業にも大きな影響を与えることが予想されています。

次代に向けた学びに関し、考えるべき点として、国際標準（基準）言い換えれば国際的な物差しで教育活動を点検するということがあげられます。国際標準は、幅広い教養の追求、文系、理系を超えた総合的な学びと併せ、今後に向けての大切な視点であると考えています。そして、この視点は、現在湘南学園が進めているグローバル教育を前進させるためにも必要であり、幼稚園、小、中高のつながりの中でもとらえるべきものと思っっています。

### 農と教育

私は、農業とりわけ有機農業に関心をもち、自身の教育活動においても取り入れてきまし

た。併せて、農と教育と食の根源的なつながりについても長年考えてきました。

有機農業は土づくりを大切にします。豊かな土が豊かな作物を育みます。教育も同様かと思えます。農業が土を耕すとすれば、教育は、人を耕す、心を耕すと表現できるかもしれません。

人間の「いのち」と「身体」を支える農業、「食育」を含めた農業のもつ教育的意義は今後さらに高まると思われれます。

農と教育は、今後の学園づくりにおいて大切にしたいテーマです。

### リスベクトと協働

教師にとって大切なものに「プロ意識」と「アマチュア精神」があると思っています。プロとしての自覚と誇りを持ち

「磨き続ける」ことが教師には求められます。一方で、同じ年代の子どもたちを相手にする仕事として、初心にかえる姿勢、「アマチュア精神」も大切にしたい点です。私は「アマチュア精神」は、「謙虚さとリスベクト」にあると考えています。リスベクトの相手は、教職員、生徒、保護者、卒業生、地域を含

む学園に関係する方々、さらには学園そのものも対象になると思っています。

互いにリスベクトを大切に、チーム湘南学園が一体となり、地域の方々も含めた協働により、子どもたちの成長を支えていきたいものです。

### 「夢に向かって」

—平尾昌晃氏の言葉から—

70周年記念誌に平尾昌晃氏が「夢に向かって」という題の文章を寄稿されています。冒頭、氏は述べています。「僕達の若かりし頃の湘南学園は、まぶしく輝いていて、日本にひとつしかない、素晴らしい学園と誇りを持ち、胸を張っていました。」

平尾氏は、自らの学園生活を顧みながら、湘南学園のあるべき姿を見事に切り取られている感をもちます。

子どもたち一人ひとりに丁寧に目を注ぎ、子どもたち一人ひとりが輝いていく、湘南学園の教育の原点はそこにあり、平尾氏の言葉は、これからの学園づくりに向けて、私たちに励ましと示唆を与えてくれているような気がしています。

### 教育は希望

私は、「教育は未来への希望をつなぐ営みであり、一人ひとりの子どもが希望である」と思っています。そして、湘南学園の教育には「希望」と呼ぶべきものが内包されていると感じています。

子どもたちが「希望」をもち「輝く」ためには、「期待する」ことが何よりも大切です。子どもたち一人ひとりに「期待する」、「丁寧に見る」、その上で「褒める」ことは、子どもたちの成長、自立に向けて、同時に湘南学園の教育が希望であ